

本書は、読者に「現場の報告が何よりも説得力を持つ」という印象を強烈に与え、それぞれの執筆者の若々しさと情熱を感じさせてくれる好著である。

執筆者の一人である小林哲也氏が評者の政策担当秘書を務めていることから本稿の依頼を受けたが、予期していた以上に彼らの活動領域は幅広い。アフリカ、東南アジア、南および西アジア、旧ユーゴスラビアなど広範な地域で、保健・医療協力、難民支援、地雷撤去関連、児童労働問題、選挙支援と様々な活動を繰り広げている。「いまどきの若者は・・・」「社会や政治に無関心な若者・・・」と常套句のように使われるこのフレーズが、いかに表層的で無責任なものであるかを証明するものである。

評者も10数年前、短期間ではあるが、内戦さ中のスリランカに「サルボダヤ」という農村開発NGOの活動があるという事を聞きつけて訪れた経験を持つ。しかし当時に比し、近年の国際NGOの社会的役割の大きさ、人材の豊富さ、そして影響力の大きさは計り知れない。特に90年代における国内外でのNGOという新しいアクターの勃興は、21世紀の社会システムを考える上で不可欠な要素になっている。

本書の貢献は、執筆者それぞれの活動内容の報告であることは勿論であるが、それにとどまるものではない。

第一に、国際貢献活動とは一体どのような活動があり、どのように行われているかを知るにあたり、有益な情報が本書には詰

まっている。漠然と「国際貢献をしたい。国際NGOで働きたい」と考えている者にとって、良い道標になるだろう。第二に、執筆者が大阪大学大学院国際公共政策研究科(OSIPP)の卒業生であることは、同大学院の目的と研究内容、卒業後の進路等について、多くの示唆を与えている。1994年の設立後、約10年を経過した同大学院の試みは、一つの成果を収めていると言えるのではなからうか。編著者の津守氏は、元クウエート、ミャンマー大使だが、OSIPPでも2年間、教鞭をとり、本書の執筆者らはその教え子でもある。

そして第三に、冷静な問題提起である。評者は執筆者の献身的な活動を評価する一方で、国際社会の背後に横たわる巨大かつ解決困難な多くの課題について、絶望にも似た思いを抱いてしまう。5000万人とも言われる難民。これほど地雷撲滅運動が盛んになっても、未だに地雷は製造され続け、無数に埋設されている事実。多様で一筋縄ではいかない各国の民主化プロセス。貧困と紛争の狭間で子供の人権をどう守っていくか等々…。我々人類がこれらの課題に絶望することなく、今後、長期間に渡って対峙し続けなければならない現実を、本書は指摘してくれている。

惜しむらくは、執筆者それぞれの報告の観点が異なっていることだろう。一つ一つは個性的であるが、制度面を重視した報告、手記的な報告等が併記されているため、読者にやや戸惑いを与える。また、政治システムとの関連、日本外交との関係等についての記述があれば、更に読み応えも増したことだろう。10年後、彼らが国際社会の中でどんな役割を果たしているのか？それがとても楽しみである。

福山哲郎(参議院議員)

卒業生  
近況

OSIPP一期生で  
同窓会「動心会」副会長

藤本 眞悟さん

### 高校教師しながら博士取得

「あきらめようかと思うほど苦しかったのですが、博士を取って大きな達成感がある。高校の教師をしながら昨年、博士の学位を取得した。勤務する市立尼崎高校では英語を教え、進路指導も担当、演劇部の顧問も務めて多忙。土日に演劇の指導で学校に出ると合間に進路指導室で論文を書いたり、ストレスがたまるとカラオケ屋で『母校早稲田の第二校歌『人生劇場』』を朗読して仕上げた。

論文題目は「北一輝の政治思想

- 三部作における国家・社会・個人  
- 」。北は一般には右翼のイメージが強いが、それは一面に過ぎず、北の政治思想の根幹にある「弱者の立場に立った独特の社会主義観『純正社会主義』」の理念を中心に主な著作3点を詳細に分析、新しい北一輝像を提示した。

71年、早稲田大学教育学部に入學したが当時は学生運動の盛んなころ。その中で政治思想への興味をもったものの、大学では授業があまり開かれず、知的関心は満たされないまま卒業してしまった。地元に戻り高校に勤務していた94年、阪大に新しい大学院ができ社会人でも学べると聞き、OSIPPに1期生として入学、米原謙教授の指導のもと、北一輝の研究に取り組んだ。

98年にOSIPP同窓会「動心会」が

創設されたが、この発足にも尽力し副会長を務めている。

「高校の教師だけしていると視野狭窄になるが、OSIPPでは教官、学生とも個性ある人が多く交流の輪が広がった。OSIPP開設当初は校舎も何もなかった代わりに、川島慶雄、蛸山昌一先生を始め名物教授らと学生らが頻りに飲みに行ったりして、非常に濃密な交流があった」と振り返る。

そうした経験から後輩諸氏には、「優れた先生が多いので、飲み屋にも一緒について行って研鑽を積んで欲しい」と励ましている。

同窓会コーナー  
OSIPP ALUMNI